

西根

子どもたちの安全を守ろうと、平笠小創立130周年実行委員会(工藤昇会長)、吉祥寺住職の丹内禅海さんは4月28日、同校(吉見広校長、児童49人)に、熊鈴を贈りました。熊鈴は防犯用に全校児童に配布。鈴の音を聞いた地域の人たちに、子どもたちを見守ってもらおうと工藤会長が発案しました。



工藤会長(左)が工藤達也児童会長に熊鈴を贈りました



会場では、つきたてのもちが振る舞われました

開業10周年を迎えた道の駅にしね生産物直売所は4月2日、記念フェアを開きました。10周年の感謝から通常価格より1割引きで野菜などを販売。店先には、地元農家自慢のホウレンソウやミズナ、イチゴなどが所狭しと並べられたほか、漬物やホウレンソウソフトクリーム、かも鍋など人気を集めました。会場では、もちつき大会も行われ、つきたてのもちが来場者に振る舞われました。

熊鈴の音色で不審者を児童に近づけるな

「イチゴ甘い」。杉の子保育園(遠藤武敬園長、園児72人)の園児は4月5日、西根温泉ゲンデルランドのイチゴハウス館に招かれ、イチゴ摘みを楽しみながら、甘い実をほお張りしました。

招待されたのは、5歳児の18人。園児たちは、ハウス内ですくすくと育った真っ赤な実を、丁寧にもぎ取りながら、次々と口へ運びました。参加した中川咲ちゃんは「こんなにたくさんイチゴを見たのは初めて。とってもおいしい」と喜びました。中には30個ほど食べる園児もいて「もう夕飯は食べれない」とお腹をさすりしました。



自分で摘んだ真っ赤なイチゴをほお張り、「甘い」と喜び園児たち

温泉熱で育ったイチゴはお張り「甘い」

八幡平市

国立公園編入50周年迎える八幡平山開き

岩手、秋田両県にまたがる八幡平の山開きは4月29日、八幡平見返峠駐車場で行われました。

山開きの式典には、山岳関係者や観光関係者など約70人が出席。一年間の登山者の安全と観光客の増加を祈願しました。

式典で松浦春男鹿角市助役は「自然を守り育て、次代に引き継ぐことが大切です。八幡



八幡平の山開きを祝い、八幡平市山岳協会の田中耕一さん(写真左)と鹿角市山岳協会がピッケルを交換し、1年間の登山者の安全を願いました



快晴の中、山頂を目指し登山する山岳会と観光客

平市と連携して、環境保全と観光振興を進めたい」とあいさつし、今年、十和田八幡平国立公園編入50周年を迎える八幡平の発展を願いました。

鏡開きやテープカットに続いて、両県の山岳協会がピッケルを交換し、八幡平の観光シーズンがスタートしました。

早速、観光客は山岳関係者と一緒に山頂を目指して、雪上トレッキングを開始。八幡沼などを見ながら、約2キロのコースを歩き、久しぶりに八幡平登山を楽しみました。

(社)八幡平市観光協会(☎781-3500)では、予約をすればガイドが八幡平の散策に同行し、高山植物などを紹介するサービスも行っています。

安全な地域づくり目指し啓発活動を展開

4月6日から15日までの春の全国交通安全運動と地域安全運動に合わせ、交通安全協会、防犯協会などは、市内各地で啓発活動を展開しました。

期間中の7日には、マックスバリュ西根店前行われ、関係者約20人が出勤。買い物客にチラシやポケットティッシュを配りながら、交通安全や外出時の戸締りなどを呼び掛けました。チラシを受け取った買い物客は、気を引き締め直していました。



交通安全や防犯を呼び掛けながらチラシなどを配布

明るく市を灯す街路灯を岩手銀行が寄付



田村市長に目録を贈る永野勝美岩手銀行頭取(写真左)

株式会社岩手銀行(永野勝美頭取)は4月4日、市町村合併の記念として、市に街路灯を寄付しました。

当日は、永野頭取が田村正彦市長を訪問し「雄大な八幡平に負けないような市になってほしい」と激励しました。田村市長は「市民の要望に合わせ、有効な場所に設置したい」とお礼を述べました。

同銀行では、平成3年以降に合併した市町村へ記念品を贈っています。

安代



5,000人を超える観光客が訪れた不動の滝まつり

迫力の水しぶきに釘づけ不動の滝まつり

安代地区の春の観光シーズンの幕開けを飾る「不動の滝まつり」は5月3日、桜松神社公園で行われました。日本の滝100選に認定されている不動の滝を参拝しようとして、5千人を超える観光客が来場。落差15mの断崖から水しぶきを上げて流れ落ちる、迫力ある滝を楽しみました。会場には出店が並び、特設ステージでは、さまざまなイベントも行われ、にぎわいました。

安代漆工技術研究センターで4月5日、漆塗りの伝統技術習得に意欲を燃やす女性4人の入所式が行われました。入所したのは(写真左から)六十苅緑さん(遠野市)、伊達瑠璃子さん(宮城県)、高橋睦さん(秋田県)、浅野奈生さん(東京都)の4人。同センターでは、昭和58年から伝統技術の普及を図るため、研修生を受け入れてきました。これまでに38人が巣立ち、県内外で活躍しています。



漆塗りの伝統技術を習得しようと意欲を燃やす研修生

漆塗り職人の養成機関に女性4人が入所



開業記念式典では、地域の人たちが腕によりをかけて作った料理が振る舞われました

旧五日市小学校の校舎を改装した宿泊交流施設「学校の宿・希望の丘」の開業記念式典は4月15日、同施設で行われました。当日は、地域住民や関係者など約90人が出席。同施設を運営する旧五日市小学校運営組合の伊藤重昭組合長(組合員9人)が「訪れる人に安らぎを与え、地域のシンボルとして親しまれる施設にしたい」とあいさつしました。この後、

テープカットが行われ、施設の開業を祝いました。この施設は、廃校を活用した滞在型体験学習施設。地域の農産物を生かしたグリーンツーリズムを展開し、子どもたちの体験学習に適しています。食事は、旬の食材を使った地域の郷土料理が中心。施設は、誰もが使いやすいようにユニバーサルデザインを取り入れました。(施設の紹介は24ページに掲載)

学校へ行こう。廃校舎を宿泊施設に一新

松尾



高さ10mを超える雪の回廊を楽しみ観光客で長蛇の列に

雪の回廊は圧巻。八幡平の両ライン開通

冬の間、閉ざされていた八幡平アスピーテライン(10.6km)と八幡平樹海ライン(16.2キロ)は4月26日、同時開通しました。両道路は、岩手県側から八幡平山頂付近の見返峠に通じる観光ルート。昨年11月7日に道路が閉鎖されて以来、約半年ぶりに開通し、八幡平に春の訪れを告げました。アスピーテラインの開通式には、関係者のほか、道路脇にそびえる雪の回廊を楽しみにした観光客約100人が参加し、テープカットなどで春のゲートを開き、全線開通を祝いました。



両ラインの開通を控え作業を進める除雪車(4月13日)

静岡県から訪れた斉藤俊一さんは、25日の正午ごろから並んで一番乗り。「開通した道路を一番に走るそう快感を味わいたかった」と両ラインの開通を待ちわびていました。今シーズンは大雪だったこともあり、八幡平の雪の回廊は高いところで11mほど。観光客は、山頂目指してゆつくりと車を走らせ、雪の回廊を楽しみました。両ラインは凍結のおそれがあるため、当分の間午後5時から翌日の午前8時半まで夜間は通行止めになります。

八幡平の桜と雪の回廊を楽しむ「八幡平さくらと残雪まつり」は5月3日から7日まで、松尾八幡平ビクターセンター周辺で行われました。この祭りは、ゴールデンウィーク中に毎年行われ、今年で4回目。会場には、地元の特産品などが、所狭しと並べられ、たくさんの観光客でにぎわいました。会場付近を発着点とする遊覧ヘリコプターも運行し、観光客は八幡平の雄大な自然を楽しみました。



春の味覚を味わおうとたくさんの観光客が訪れました

八幡平からの恵みを目で感動、舌で感激

不審者ども、この防犯ベルが目に入らぬか



松野小の児童会長に防犯ベルを贈呈する松尾勇会長

不審者から子どもたちを守るろうと松尾村防犯協会松尾勇会長は4月6日、松尾地区の小学校3校に計400個の防犯ベルを贈りました。同協会は、近年、小学生を狙った凶悪犯罪が全国で発生していることから、防犯ベルを同地区の児童全員に配布。地域の宝である子どもたちの安全を願いました。松尾会長は「この防犯ベルを使うことがない世の中になってほしい」と話しました。